

## 「日本一のニンニク産地」を守るために

健康により成分を含む食品として注目を集めるニンニク。青森県全体では全国におけるニンニク収穫量の68%を占め、その約4分の1を占める十和田市は「日本一のニンニク産地」としてテレビ番組にも取り上げられました。十和田市のニンニク生産の努力はこれからも続きます。市が現在行っている種子供給の取り組みをお知らせします。

※数値は農林水産省平成22年統計と青森県上北地域県民局地域農林水産部調べ

### 十和田市農産物の

#### トップランナー

白くて大玉、独特の強い旨みのある十和田市のニンニク。これまでの生産と販売の並々ならぬ取り組みの結果、高品質であり収穫量も日本一となりました。ニンニクは紛れもなく、十和田市農産物の主要な作目の一つとなり、全国に出荷されています。

### 直面する課題

肥<sup>ひよ</sup>沃な土壌を好み、土づくりにも多くの時間と経費を要しながら、連作(※)は病害発生危険性が生じるといふ難しさがあるニンニクを生産。一度病害が発生すると、そのほ場ではよいニンニクが採れません。近頃県内で報告される病害発生状況にも危機感が高まります。



### 十和田市のニンニク

米余り現象の対策である減反政策が本格化した昭和45年頃、米に代わる作物として取り組んだのがニンニク栽培の始まりです。

採用された青森県の在来種である「福地ホワイト」は他に類を見ないほど色が白く、全体の重量があり、糖度も高い非常に優秀な品種ですが、やせた土地では育ちません。

それを克服するための一つとして、青森県の取り組みにより「マルチ栽培」を導入し、玉が大きく育つようになりました。

現在では「福地ホワイト」をさらに改良した「白玉王(しらたまおう)」が多く作付けされています。

生産者らによる土壌改良などの懸命の努力が実を結び、市内での作付けが定着し、機械化も徐々に進んで、県内での収穫量がついに1位となりました。

ニンニクはニンニクそのものの1片を種子とします。現在、優良種子が高価であり供給量も限られていることから、生産者は購入した種子から自分で収穫したニンニクを、数年にわたって代々次回の作付けに用います。このことは、種が持つ優秀な性質が低減する恐れが生じ、玉が小さくなるなど生産量と品質の低下を招きます。

これらを防ぐためには、優良種子を定期的に購入し「種子更新」を進めることが必要ですが、コストの増大につながり生産者にとっては大きな負担となります。※「連作」とは同じほ場に、同じ作物の作付を繰り返すこと

### 品質を維持する

#### 新たな取り組み

そこで、市では今年度から十和田おいらせ農業協同組合に補助を行い、優良種子の供給量を増加させ、生産者が割安で購入できる取り組みを開始しました。

これにより平成27年から29年までの間、ニンニクの優良種子が従来の17万5千球から23万5千球に増加供給されることになりました。十分な種子の供給量を確保し、割安で購入できる状況をつくることで、生産者の種子更新する期間が短縮し、ひいては

1片を種子として1つつつ穴に植えていきます



機械による植え付けの様子。うねにマルチ資材と呼ばれるフィルムを使用して植え付けることにより、温度を保ち、肥料が抜け出さない効果があります。

### 守る努力

十和田市産ニンニクの品質維持と生産量の増加につながることを期待しています。

安全・安心はもちろんのこと、高品質のニンニクを多くの人々へ供給できる十和田市のニンニク生産力。これを超えるにはたゆまぬ努力が必要です。

市では「日本一のニンニク産地」として一層の取り組みを進めます。

皆さん、今日も地元が誇るおいしいニンニクを食卓にいかがですか？

問 農林畜産課 ☎6741